学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（地理歴史）

教科（科目）	地理歴史（日本史Ａ）	単位数	２単位	学年（コース）	３年次（選択必修）
使用教科書	東京書籍『日本史Ａ　現代からの歴史』				
副教材等	とうほう『写真資料館日本史のアーカイブ』				

１　学習目標

近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察することによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

２　指導の重点

我が国の近現代史を中心とする基礎的歴史事項や基本的な歴史の流れをわかりやすく学習します。

３　学習計画

学期	区	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	近代前期	１．国際環境の変化と明治維新 （１）１９世紀世界の動向と日本 （２）開国と倒幕	１１	定期考査 プリント提出 課題への取り組み
	中間Ⅱ	近代前期 近代中期	（３）明治新政府の諸改革と社会の変化 （４）明治初期の外交と反政府運動 ２．近代国家の成立と国際関係の推移 （１）自由民権運動の展開	１２	定期考査 プリント提出 課題への取り組み
	期末	近代中期	（２）立憲体制の成立 （３）日清戦争と国際関係 （４）日露戦争前後の世界と日本	１２	定期考査 プリント提出 課題への取り組み
後期	中間	近代後期	３．両世界大戦をめぐる国際情勢と日本 （１）帝国日本と第一次世界大戦 （２）政党政治と大衆文化 （３）軍国日本への道 （４）太平洋戦争と日本	１７	定期考査 プリント提出 課題への取り組み
	期末	現代	４．現代世界と日本 （１）現代世界の開幕と日本の戦後改革 （２）日本の再建と復興への道 （３）米ソ二極構造の世界と国内の再編 （４）高度経済成長の時代 （５）低成長から経済大国へ （６）冷戦の終焉と日本	１８	定期考査 プリント提出 課題への取り組み

計 70 時間（50 分授業）

４　課題・提出物等

定期的にプリントを提出してもらいます。

５　評価規準と評価方法の評価の観点

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究することができる。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見いだし、公正に判断し、適切に表現することができる。	諸資料を収集し、有用な情報を選択活用し、考察することができる。	基本的な事柄を世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解できる。
上記の①～④を考慮して総合的に評価します。			

６　担当者からの一言

地域史を交えながら、身近に歴史を感じられるように工夫します。現代の私たちの社会がどのような歴史的過程を経て成立したのか学ぶことで、現代の諸課題を考察する素地を養います。　（担当　中山）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（地理歴史）

教科（科目）	地理歴史(地理A)	単位数	２単位	学年（コース）	３年次（選択必修）
使用教科書	帝国書院『高等学校　新地理A』 帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	第一学習社『最新地理図表 GEO 三訂版』				

１　学習目標

現代世界の地理的な諸課題を、地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

２　指導の重点

選択必履修科目であるため、選択者の志向が多岐にわたるため、基本的事項の習得を重視して学習活動を進めていく。

３　学習計画

学期	区	単元（主要学習領域）	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	地球上の位置と国家 グローバル化が進む世界	・地球儀と世界地図を用い、地図の基本を学習する。 ・観光や交通、情報、貿易などテーマに国際関係の活発化・複雑化をとらえ、さらに国と国との関連についても地理的環境と関連づけて学習する。	11	授業の取組み ワークシート提出
	中間Ⅱ	人々の生活と地形 人々の生活と気候 人々の生活と産業･文化	・地形環境、気候環境の基礎を学習し、世界諸地域の生活・文化や民族性と関連づけて追究し、生活・文化を考察する視点や方法を学習する。	12	中間考査Ⅱ 授業の取組み ワークシート提出
	期末	世界諸地域の生活文化	・世界の各地域を取り上げ、生活・文化の特色を追究し、日本との関係の中で考察する視点や方法を学習する。	12	期末考査 授業の取組み ワークシート提出
後期	中間	人口問題・食糧問題 居住･都市問題 環境問題 資源エネルギー問題	・環境、資源・エネルギー、人口・食料及び居住・都市問題について、地球的･地域的視野から学習する。近隣諸国や日本が取り組んでいる地球的課題を追究し、日本の役割などについて学習する。	17	中間考査、 授業の取組み、 ワークシート提出
	期末	身近にある様様な地図 日本の自然環境と防災 身近な地域の課題と地域調査	・身近な地域の地形図の活用の仕方を学習し、日本の自然環境のあり方と防災学習を結び付けて考える。身近な生活圏にあらわれている諸課題を、地理的にとらえ、調査、考察、議論し、課題の解決に向かう地域調査について学ぶ。	18	期末考査 授業の取組み ワークシート提出

計 70 時間 （50 分授業）

４　課題・提出物等

ワークシート・ノート等を定期的に点検する。

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
学習内容に関心を持って､集中して学習に取り組む態度と意欲がみられる。 課題の指示に対して意欲的､的確に取り組みができる。	自然的･歴史的背景から地理的現象の原因と社会的影響を科学的に考えることができる。	読図や作図､景観写真の読み取りなど地理的技能を身につけることができる。	世界各地の地誌への十分な知識を得て､地球的課題の解決に当たっての異文化理解と国際協力の必要性を理解できる。

以上の観点をふまえ、定期考査の学習成績・授業への取組み状況・ワークシート・ノート等の提出状況・出席の状況を総合的に評価する。

６　担当者からの一言

クローバル化した現代社会では、私たちは世界を意識して生活する必要がある。『地理A』の学習を通して、国際社会に主体的に生き、民主的で平和的な国際社会を実現していくために必要な基礎的資質と能力を磨いていく。細かな作業も多いが、しっかりやり遂げることが必要である。

（担当：浅野　政和）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（公民）

教科（科目）	公民（政治・経済）	単位数	２単位	学年（コース）	３年次（人文科学系列）
使用教科書	清水書院　『高等学校　現代　政治・経済　新訂版』				
副教材等	浜島書店　『最新図説　政経』				

１　学習目標

現代の政治・経済や国際社会の動向を探求し、それに対する自らの見方や考え方を深め、民主的・平和的な国家・社会の形成者としての資質を身につける。

２　指導の重点

・　自らの疑問点や考えをしっかり持って、考察を深めてもらいたい。
・　身近な出来事から社会の動き、変化を考えることができるように興味を持つこと。

３　学習計画

学期	区	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	日本国憲法と国民主権	日本国憲法制定までの道のり、日本国憲法の基本的原理、国民主権と象徴天皇制について学ぶ。	11	授業の取り組み
	中間Ⅱ	日本国憲法と平和主義 日本国憲法と人権保障	日本国憲法における平和主義の系譜と現代の安全保障政策の原則、基本的人権の保障について学び、考察する。	12	定期考査 授業の取り組み
	期末	日本の政治機構 （国会、内閣、裁判所、地方自治） 現代日本の政治 （政党政治と選挙制度、世論の役割）	日本の政治のしくみを学び、現代政治の諸問題を考察する。	12	定期考査 授業の取り組み
後期	中間	現代経済のしくみと特質	経済活動の基本概念、経済活動の主体、市場経済の機能と限界、企業の役割など、現代経済の基本的事項について学ぶ。	17	定期考査 授業の取り組み
	期末	金融と財政のしくみ 日本経済のあゆみと現状	金融､財政のしくみとはたらきについて学ぶ。現代の日本そして国際社会で取り組まなければならない諸課題について考察する。	18	定期考査 授業の取り組み

計 70 時間（50 分授業）

４　課題・提出物等

課題プリント、　ノート　等

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

②　関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
各単元の学習内容のポイントを意識して､授業の諸活動に意欲的に取り組むことができる。	問題を自らの生活と関連づけて考え､問題の本質を的確に捉え判断することができる。	図表を活用し考察することができ､自らの知識や考えを適切に表現することができる。	体系的な知識が定着し､問題を理解し考察することができる。
授業中の発問に対する応答など積極的な授業への取り組みや、提出物、定期考査を中心に、上記観点から総合的に評価する。			

６　担当者からの一言

身の回りの事柄になんでも興味を持ち、進んで自ら考え、学ぶ姿勢が大切である。班別学習などでは自分の意見を持ち積極的に取り組むことを期待したい。

（担当：　）

令和５年度シラバス（地理歴史）

教科（科目）	地理歴史（地理総合）	単位数	２単位	学年（コース）	２年次
使用教科書	帝国書院『新地理総合』　帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	とうほう『新編フォトグラフィア地理図説』				

１　学習目標

地理的な見方や考え方を培い、現代世界の地理的な諸課題を地理的要因や地域性、歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、地理的認識力を身に付け、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

２　指導の重点

（１）グローバル化や情報化、少子高齢化など、急激な社会の変化を地理的な視点で捉えながら、平和で民主的な国家及び社会を形成するために必要な資質・能力を身に付ける。
（２）現代世界における地理的認識を深めながら、地理的技能や地理的見方・考え方を習得する。
（３）主体的に社会の形成に参画する態度を身に付ける。

３　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の生活・文化の地域的特色や防災、地域的・地球的課題への取組などに関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現代世界の地理的事象の意味や特色、相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想し、その内容を効果的に説明し、それらを基に議論する力を養っている。	現代世界の地理的諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

４　評価の基準と評価方法

	知識・技能　a	思考・判断・表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
評価の観点	世界の生活・文化の地域的特色や防災、地域的・地球的課題への取組などに関して理解し、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現代世界の地理的事象の意味や特色、相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想し、その内容を効果的に説明し、それらを基に議論する力を養っている。	現代世界の地理的諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	定期考査、プレゼンテーション、提出物、授業中の取り組み、などから評価します。		

５　学習計画

学期		単元名	時数	学習活動	評価の観点	評価方法
前期	中間Ⅱ	第１部 地図でとらえる現代世界 第１章 地図と地理情報システム １節 地球上の位置と時差 ２節 地図の役割と種類 第２章 結び付きを深める現代世界 １節 現代世界の国家と領域 ２節 グローバル化する世界	２３	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	a b b c c	記述 記述 観察
	期末	第２部 国際理解と国際協力 第１章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 １節 世界の地形と人々の生活 ２節 世界の気候と人々の生活 ３節 世界の言語・宗教と人々の生活 ４節 歴史的背景と人々の生活 ５節 世界の産業と人々の生活	１２	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	a b b c c	記述 記述 観察

後期	中間	第２章 地球的課題と国際協力 １節 複雑に絡み合う地球的課題 ２節 地球環境問題 ３節 資源・エネルギー問題 ４節 人口問題 ５節 食料問題 ６節 都市・居住問題	１８	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	ａ ｂ ｂ ｃ ｃ	記述 記述 観察
	期末	第３部 持続可能な地域づくりと私たち 第１章 自然環境と防災 １節 日本の自然環境 ２節 地震・津波と防災 ３節 火山災害と防災 ４節 気象災害と防災 ５節 自然災害への備え 第２章 生活圏の調査と地域の展望 １節 生活圏の調査と地域の展望	１７	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	ａ ｂ ｂ ｃ ｃ	記述 記述 観察

計７０時間（５０分授業）

６　課題・提出物等

・定期考査の他に、プレゼンテーションを実施します。
・単元ごとにプリントを点検します。
・単元の終わりや長期休業中などに課題を出します。

７　担当者からの一言

積極的に授業に参加し、主体的に課題に対する探究活動を行いましょう。

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス（公民）

教科（科目）	公民（公共）	単位数	２単位	学年（コース）	２年次
使用教科書	実教出版社『公共』				
副教材等	第一学習社『クローズアップ公共』				

１　学習目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて，広い視野に立って，現代の社会と人間についての理解を深めさせ，公共の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

２　指導の重点

考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し，諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

現実社会の諸課題の解決に向けて，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

３　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し，諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養っている。	現代の社会的事象に関心を持ち、考えを広げたり深めたりしながら、積極的に学ぼうとしている。

４　評価の基準と評価方法

	知識・技能　a	思考・判断・表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
評価の観点	考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し，諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養っている。	現代の社会的事象に関心を持ち、考えを広げたり深めたりしながら、積極的に学ぼうとしている。
評価方法	定期考査、プレゼンテーション、提出物、授業中の取り組み、などから評価します。		

５　学習計画

学期		単元名	時数	学習活動	評価の観点	評価方法
前期	中間Ⅱ	第１章　社会を作る私たち 第２章　人間としてよく生きる 第３章　他者と共に生きる 第４章　民主社会の倫理 第５章　民主国家における基本原理	２３	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	a b b c c	記述 記述 観察
	期末	第１章　日本国憲法の基本的性格 第２章　日本の政治機構と政治参加	１２	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	a b b c c	記述 記述 観察
後期	中間	第１章　現代の経済社会 第２章　日本経済の特質と国民生活	１８	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	a b b c c	記述 記述 観察
	期末	第１章　国際政治の動向と課題 第２章　国際経済の動向と課題 持続可能な社会作りの主体となる私たち	１７	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	a b b c c	記述 記述 観察

計７０時間（５０分授業）

６　課題・提出物等

・定期考査の他に、プレゼンテーションを実施します。
・単元ごとにプリントを点検します。
・単元の終わりや長期休業中などに課題を出します。

７　担当者からの一言

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開を実践します。

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス（地理歴史）

教科（科目）	地理歴史（歴史総合）	単位数	２単位	学年（コース）	１年次
使用教科書	東京書籍『新選歴史総合』				
副教材等	帝国書院『明解　歴史総合図説　シンフォニア』				

１　学習目標

現代の諸課題の形成に直接関わる近現代の歴史について、世界とその中における日本を広く相互的な視野から学ぶ。資料を活用しながら、近現代の歴史を主体的に考察できるように、歴史の学び方を習得する。
(1)現代の諸課題の形成に直接関わる近現代の歴史について体系的に把握するための知識、技能を身につける。
(2)世界とその中における日本を広く相互的な視野から分析し、資料を活用しながら論述できるようにする。
(3)近現代の歴史に対する考えを広げたり深めたりしながら、主体的に学ぼうとする態度を養う。

２　指導の重点

・基本的な歴史事項をおさえつつ歴史の流れを把握していくことをめざす。
・定期考査のみならずレポートの作成、発表、グループでの話し合い等、多様な活動を取り入れて評価する。

３　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史の流れを体系的に把握するために必要な基礎的事項を身に付けようとしている。	歴史の因果関係を分析する力を伸ばし、学んだことを論述などで表現しようとしている。	歴史に関心を持ち、考えを広げたり深めたりしながら、積極的に学ぼうとしている。

４　評価の基準と評価方法

	知識・技能　a	思考・判断・表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
評価の観点	歴史の流れを体系的に把握するために必要な基礎的事項を身に付けようとしている。	歴史の因果関係を分析する力を伸ばし、学んだことを論述などで表現しようとしている。	歴史に関心を持ち、考えを広げたり深めたりしながら、積極的に学ぼうとしている。
評価方法	定期考査、プレゼンテーション、提出物、授業中の取り組み、などから評価します。		

５　学習計画

学期		単元名	時数	学習活動	評価の観点	評価方法
前期	中間Ⅱ	第１章　歴史の扉 第２章　近代化と私たち （１）近代化への問い （２）結び付く世界と日本の開国	２３	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	ａｂ ｂｃ ｃ	記述 記述 観察
	期末	（３）国民国家と明治維新 （４）近代化と現代的な諸課題	１２	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	ａｂ ｂｃ ｃ	記述 記述 観察
後期	中間	第３章　国際秩序の変化や大衆化と私たち （１）国際秩序の変化や大衆化への問い （２）第一次世界大戦と大衆社会	１８	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	ａｂ ｂｃ ｃ	記述 記述 観察
	期末	（３）経済危機と第二次世界大戦 （４）国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	１７	・定期考査、プレゼン ・プリント、課題の提出 ・課題への取組み	ａｂ ｂｃ ｃ	記述 記述 観察

計７０時間（５０分授業）

６　課題・提出物等

・定期考査の他に、プレゼンテーションを実施します。
・単元ごとにプリントを点検します。
・単元の終わりや長期休業中などに課題を出します。

７　担当者からの一言

私たちの社会がどのような歴史的過程を経て成立したのか学ぶことで、現代の諸課題を考察する素地を養います。